

令和4年度 東京都立駒場高等学校経営報告

令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の影響が続く1年であったが、「進学指導特別推進校」であるとともに全国大会・関東大会出場レベルの運動部・文化部の部活動を有する「Sport-Science Promotion Club」指定校「文化部推進校」、また「英語教育研究推進校」「海外学校間交流推進校」として、生徒一人一人が意欲的に「学習」と「部活動・学校行事」の両面に励み、「高い学力」と「豊かな人間性」をしっかりと身に付け、自らの進路希望を実現できる学校となるべく学校経営を進めてきた。以下にその取組について報告する。

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

【進学実績】

(ア) 大学合格状況《新卒》

○国公立大学＜数値目標……70名以上＞

36名合格（3年度56名、2年度66名）

東北大1 筑波大3 埼玉大1 東京海洋大2 電気通信大3
東京医科歯科大1 東京学芸大2 東京農工大1 一橋大2
横浜国立大3 信州大1 富山大1 大阪大3 神戸大1
奈良女子大1 埼玉県立大1 東京都立大7 川崎市立看護大1
芸術文化観光専門職大1

- ・合格人数は前年度から20名減、数値目標達成率は51%だった。
- ・難関国立大学の合格者は2名（一橋大2）であった。

○難関私立大学＜数値目標……95名以上＞

93名合格（3年度89名、2年度114名）

早稲田大 35名（3年度32名、2年度62名）
慶應大 9名（3年度13名、2年度12名）
上智大 32名（3年度15名、2年度12名）
東京理科大 17名（3年度29名、2年度29名）

- ・合格者数は前年度から4名増、数値目標達成率は98%であった。

○大学入学共通テストの5教科5科目以上受験者数＜数値目標……150名以上＞

121名受験（3年度126名、2年度106名）

- ・受験者は前年度から5名減、数値目標達成率は81%であった。

○5教科5科目以上受験者数のうち80%以上得点した生徒数＜数値目標……30名以上＞

2名（3年度3名、2年度15名）

(イ) 大学合格状況《新卒・既卒合計》

○国公立大学＜数値目標……90名以上＞

46名合格（3年度64名、2年度72名）

- ・合格者数は前年度から18名減、数値目標達成率は51%であった。
- ・既卒生1名が東京大に合格した。

○難関私立大学＜数値目標……１２０名以上＞

１１６名合格（３年度１０４名、２年度１３１名）

・合格者数は前年度から１２名増、数値目標達成率は９７％であった。

①（学習指導）

（ア）指導力向上

- ・第１学年から学習指導要領（平成30年告示）の実施となったことから、カリキュラムの変更に伴う授業内容や評価方法の変更・検討を行った。
- ・「生徒による授業評価」を再開し、授業改善や生徒の学力向上に取り組んだ。
- ・東京都教育委員会から生徒・教員に配布された、Microsoft Office 365 の活用を図った。
- ・教科や学年担当者で共通した小テスト等を実施し、生徒の基礎学力の定着を図った。
- ・若手教員育成研修（１～３年次）等の研究授業などを活用し、ＩＣＴ機器の活用等による授業の工夫・改善を行った。
- ・教科内で指導計画、指導内容、指導方法について共通理解を深めるとともに、教材選定や授業の進め方、定期考査の問題作成などについて十分協議し、教科指導力の向上に取り組んだ。

（イ）補習・講習

- ・夏季休業中、３年向け講座を中心とした補習・講習、共通テスト直前講習、冬季休業日中の補習・講習などを組織的に実施し、多くの生徒が参加して、真剣に取り組んだ。
- ・夏季休業日中の講習計画を予備校の夏季講習申し込み前の６月中旬に生徒に提示するとともに、講習の時間帯を工夫し、希望する講習が受講しやすくなるように配慮した。
- ・生徒が自分の進路に合った講座を取れるように、講座の狙いに応じたきめ細かな受講指導を行った。
- ・１学年や２学年の補習・講習については、下位層の底上げとともに上位層の学力向上を推進するために、講座の工夫・充実を図った。

（ウ）土曜授業

- ・土曜日授業を年間２０回実施した。

（エ）習熟度別授業

- ・普通科では第２学年の数学及び英語表現Ⅱ、保健体育科では全学年の英語で習熟度別授業を実施した。学習内容、進度、クラスの入替え時期、評価の在り方などを工夫することで、基礎学力の定着及び難関大学等への志望者確保に一定の効果があつた。
- ・国語では、国立大学後期試験や難関私立大学受験者を対象として、個別に小論文指導を行った。
- ・英語では、国公立大学や難関私立大学受験者を対象として、ＡＬＴ１名及びＪＥＴ２名を活用した指導も合わせて個別に総合的な英語活用能力及び自由英作文指導を行った。

（オ）自学自習体制の充実

- ・自習室として使用していた生徒ホールの机配置を見直し、実質使用可能席数を約１２０席に確保した。また、平日授業日の夜間（午後５時～午後７時５０分）の利用届をオンライン化することで、利用状況が可視化できるようになった。これらのことから、１・２年生が３年生に交じって自習をする心理的な抵抗が弱まり、利用率が向上した。

- ・自習室に卒業生・東大生サポートティーチャー等に加え、退職教職員管理職ボランティア1名を配置する支援する体制を整えて17年目となった。次年度は感染症対策に継続して取り組み、低学年での利用促進を図るとともに、所管を進路部に位置づけ、自習体制の活用を図る。

②（進路指導）

- ・3年間を見通した進路指導全体計画に基づき、進路部が主導し、第1学年からの組織的な進路指導及び進路相談体制の充実、補習・講習の組織的な実施、自主学習支援体制の充実、大学と連携した体験的な進路指導の充実などを通して、早期から生徒の進路意識を段階的に高めた。
- ・コロナ禍や新規導入である共通テスト等に対する指導が十分に効果を示さない面があった。今後、最後まであきらめずに粘り強く学習を続ける姿勢を生徒に定着させる指導の強化が課題であることが分かった。今後も、この姿勢を堅持し、進学実績の向上を目指していく。
- ・大学入試共通テストを出願した生徒の人数は、312名で、98.1%（3年度310名）であった。

③（生活指導）

- ・生徒部、保健部及び学年と連携し、感染症予防及びコロナ禍での品位ある態度を含む、基本的な生活習慣や服装、通学路や校内でのマナー向上など、自律性を促す指導を実施した。
- ・オンライン活用を含むホームルームやセーフティ教室などで、交通安全の意識高揚、情報モラルの向上等の取組を行い、生徒の規範意識の向上を図った。
- ・チャイムと同時の授業開始、学習と部活動との両立、学校行事に取り組み、生活習慣や自律性、規律性をなどの規範意識の向上を図った。
- ・生徒の生活実態調査を実施し、学年や部活動状況の違いに応じた起床・就寝時刻、登下校の状況、学習時間や学習開始時刻、スマートフォン使用とTV視聴時間等の傾向の把握を行い、今後の生活指導等に活用できる基盤を作った。

④（学習指導・特別活動・部活動）

（ア）部活動や学校行事の充実

- ・コロナ禍にあっても「Sport-Science Promotion Club」に、体操競技部、水泳部、サッカー部、女子バレーボール部、柔道部が指定され、「部活動ガイドライン」遵守し、競技力向上を目指すとともに、部活動を通してより良い人格形成を図った。
- ・全国大会には、運動部3部（陸上競技・体操競技・水泳）、文化部3部（駒場フィルハーモニーオーケストラ・百人一首・新聞局）が出場した。
- ・関東大会には全国大会出場の部以外に、運動部2部（女子バレーボール・女子バスケットボール）が出場した。
- ・昨年度はコロナで中止となっていた「クラブ活動等への外国人講師派遣校（ドイツ語交流）」「東京大学留学生との交流事業」を実施した。
- ・部活動加入率（7月調査）は、94%（3年度95%、2年度91%）であった。夏季休業期間中の部活動合宿は新型コロナウイルス感染症対策が万全にできないことから中止したが、保健体育科の専攻種目にあたる部活動の「専攻合宿」については、冬季休業期間から再開した。
- ・体育祭は、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、3年ぶりに全校一斉の実施とした。
- ・「都駒祭（文化祭）」は新型コロナウイルス感染症対策の関係で、来校保護者数を限定し、一般公開を見送り、実施した。
- ・水泳大会は保健体育科については実施したが、普通科については新型コロナウイルス感染症対策が十分にできないことから中止した。
- ・修学旅行は、令和3年度第2学年は4月に2泊3日で北陸方面（当初予定では令和3年12月

に3泊4日沖縄）、令和4年度第2学年は12月に2泊3日で関西方面（当初予定では令和4年12月に3泊4日沖縄）と、新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施した。

（イ） 規律性、社会性、人間性の醸成

- ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら保健体育科の「駒場スポーツ教室」を再開した。
- ・8月の海外語学研修（オーストラリア・クイーンズランド州ゴールドコースト）はコロナ禍のため3年連続の中止とした。令和4年度再開の方向で検討を行うこととした。

（ウ） 保健体育科実技発表会

- ・毎年10月に行っている保健体育科実技発表会は、保護者及び中学生等への公開を限定したものの、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら前年度取りやめていたプログラムを再開するなどして実施し、保健体育科全生徒の帰属意識の向上等に効果が顕著であった。

⑤（健康づくり）

- ・定期健康診断や学校保健委員会等で学校医と、専門医派遣事業による専門医（精神科）との連携に加え、特別支援教育心理士派遣事業も活用し生徒の心身の健康増進等を図った。
- ・スクールカウンセラーと教員との連携を充実させ、1学年の全員面接を行い課題の把握に努めるとともに、教育相談委員会（兼いじめ対策委員会）を機能させ、昨年引き続き精神科医派遣事業も活用して生徒の心身の健康状態の把握と対策の検討等とおして、組織的にいじめの予防を行うことができた。
- ・ホームルームや放送によるセーフティ教室などで、交通安全の意識高揚、情報モラルの向上等の取組を行い、危険を予知し回避する能力を高めた。
- ・自助・共助の精神を育むとともに、危険を予知し回避する能力を高めるよう地域と連携した宿泊防災訓練は、前年度中止であったが再開した。
- ・美化・保健委員会を中心に感染症予防に向けた生徒の意識向上を組織的に取組んだ。

⑥（募集・広報活動）

- ・校内で実施した学校見学会・説明会は、集合型の説明をできる限り動画配信形式にすることで感染症対策をするとともに、時間・場所の制約を受けることなく紹介や説明が視聴できるようにした。その結果、秋の学校説明会の参加者は大きく減少したが、夏までに来校した中学生やその保護者が再来場せずに必要な情報を収集できたようである。
- ・土曜授業日や夏季休業期間に、PTAの協力によりZOOMを用いたオンライン学校紹介を実施し、来校しての見学に制限があった中学1・2年生及びその保護者に本校を知っていただき機会を設けた。
- ・ホームページは12月にリニューアルを行った。リニューアルに伴う全ページの再構成のほか、年間570回以上の更新を行い、オンラインで部活動での生徒の活躍や入学者選抜の情報等を提供した。リニューアル後のアクセス数は4ヶ月で48万7千超と、アクセス数も増加した。
- ・受検倍率は、推薦に基づく選抜の受検倍率は、普通科男子2.7倍・女子4.1倍、保健体育科3.5倍であった。学力検査に基づく選抜の受検倍率は、普通科男子1.4倍・女子1.6倍、（受検者数÷定員）保健体育科1.7倍となり、普通科は学級増による定員増がありながらも増加、保健体育科の増加であった。

⑦（学校経営・組織体制）

- ・企画調整会議の事前調整による運営効率化を図るとともに、適正な予算執行や業者選定、自習室の運営など、経営企画室の経営参画の促進、働き方改革の推進を行った。
- ・生徒用ロッカー、多摩産材による教卓及び書架の更新、暗幕カーテンの整備、体育館温水機器の更新、など施設設備の補修・改修を進め、安全に学習する環境の整備を進めることができた。

（２）重点目標への取組と自己評価

①学力の向上

上記１（１）②と同じ

②進路希望の実現

- ・「進学指導特別推進校」として平成３０～令和４年度の指定に引き続き令和５～９年度の指定も受けた。
- ・進学実績は、上記１（１）のア・イのとおり。
- ・模擬試験を３回実施した（第１学年は７月、１１月、１月、第２学年は７月、１１月、１月）。第３学年では年間４回の模擬試験を実施した。
- ・模擬試験の結果についての分析会を行い、経年的な学習成果と継続的な学習状況の組織的な把握に努めた。
- ・第３学年会に進路指導主任が毎回出席して、進路部と学年の連携を図りながら、系統的・組織的な進路指導を推進することができた。
- ・２年生に対しては、コロナ禍で中止になっていた、教育実習生による「進路講演会」を再開した。また、１・２年生に対しては、現役合格者による「進路講演会」を３月に実施し、次の学年に向けた進路意識の高揚、授業への取組の動機付けを行った
- ・従来行っていた「学習時間調査」の調査項目を一部変更し、学習時間を含めた「生徒の生活実態調査」を２月に実施した。１年生は平日部活あり＝１０５分・平日部活なし＝１４１分・休日１３８分、２年生は平日部活あり＝１２９分・平日部活なし＝１７４分・休日１８３分、２学年の平均では、平日部活あり＝１１９分・平日部活なし＝１６０分・休日１６５分、であった。今後は調査の精度を高めるとともに、スマホ等の利用時間や就寝時刻、自宅での学習開始時刻等との関連を分析し、学習習慣の確立につなげていく。

③広報活動の充実

（ア）学校説明会、学校見学会、授業公開、学習塾対象学校説明会等

- ・学校説明会（２回実施）、学校見学会（２回実施）、授業公開（５回実施）は感染予防の観点から予約制とするとともに、集合での説明を減らすために動画配信と組み合わせて実施した。
- ・都立高校合同説明会、や外部団体主催の進学相談会、上級学校説明会等は、コロナ禍の中で、入場者の制限（予約制）やオンライン実施等、形式が大きく変わり、参加機会も減少した。このことをふまえ、土曜授業日・夏季休業期間等にＰＴＡの支援を受けてＺＯＯＭオンラインミーティング形式での「オンライン学校紹介」を試行的に１８回実施した。

（イ）広報とホームページの充実、中高連携の推進

- ・ホームページは、１２月にリニューアルをした。（更新頻度・アクセス回数等は前述のとおり）
- ・保健体育科各専攻種目を中心に例年実施されていた部活動による「駒場スポーツ教室」は、２年間中止となっていたが、再開した。

(ウ) 受検倍率

上記1 (1) ⑥と同じ

- ・コロナ禍で実施できなかった本校が進める特色ある教育活動や学力向上・進路希望の実現に向けた様々な取組を、今後オンライン化の推進を含め、中学生及びその保護者に、より広く理解してもらうため、ホームページの充実などの広報活動を一層充実させてことが課題である。

2 次年度以降の課題と対応策

①確かな学力の養成と進路希望の実現

- ・「学力スタンダード」に基づいて指導を行い、目標の達成状況を把握し、プランを改善していくマネジメント・サイクルを有効に機能させ、授業改善や生徒の学力の向上を推進する。
- ・今後も新たな国公立大学及び難関私立大学進学及び新学習指導要領に対応したカリキュラムを引き続き検討し、各教科・科目の指導内容、指導方法、指導計画の工夫・改善を行う。
- ・難関国立大学の受験者を増加させ、合格者を継続的に輩出する。また、国公立大学合格者を増加させるとともに難関私立大学の合格者数を維持・増加させる。
- ・進路部と学年、教科、教務部との連携を促進して、補習・講習のさらなる拡充を図る。また、生徒に対して早期に講習計画を周知するとともに、きめ細かく受講指導を行うことによって、講習参加者の拡充を図る。
- ・進路部と学年、教科、教務部との連携を促進して、図書室、自習室、進路室等の一層の活用や「サポートティーチャー」の一層の活用を進める。
- ・進路部を中心に、3年間を見通した系統的な進路指導をさらに進め、早い時期から組織的、計画的に進路に対する生徒の意識を啓発する。
- ・「スタディサプリ」を学年進行で導入することとし、活用するとともに、「Microsoft Office 365」の活用を図り、進学指導に向けた効率的な活用について、組織的に検討を行う。
- ・授業のさらなる改善を進め、学習に対する生徒のモチベーションを高める。
- ・家庭学習時間の確保と生活規律、学習習慣の定着を組織的に推進し、学力向上につなげる。

②感染症予防対策に適切に配慮した学校行事や部活動を通した規律性、社会性、人間性の醸成と21世紀を拓くリーダーとしての資質育成

- ・体育祭、都駒祭、水泳大会、文化部発表会、修学旅行、保健体育科実技発表会、保健体育科野外実習、部活動などを通して、互いに切磋琢磨し、困難に耐え、協力して目標を達成しようとする姿勢やコミュニケーション能力を育む。
- ・服装、挨拶、マナー、協働、集中力、規律、責任等を重んじる態度を育み、リーダーとしての資質を育てる。
- ・学習活動と部活動・学校行事をバランス良く両立させ、規律ある学校生活の中で、「高い学力」と「調和のとれた人間性」、「心身の健康」を育む。
- ・品位ある服装、挨拶の励行、マナーの遵守、校舎内の美化、清潔の保持、心の健康増進に自ら進んで取り組む態度を育てる。

③感染症予防対策に適切に配慮するとともに、オンラインも視野に入れた地域に開かれた広報活動の組織的な推進

- ・学校説明会、学校見学会、授業公開、ホームページ、広報資料（学校案内・学校紹介資料・学校紹介動画）等を、中学生及びその保護者のニーズに一層合うように改善するとともに、本校の教育活動に対する理解を広め、受検者のさらなる増加につなげる。
- ・PTA、同窓会、地域、中学校・大学等との連携を強め、生徒による授業評価や学校運営連絡協議会の学校評価を教育活動の改善につなげる。